

洪水時の流域平均ハイエトグラフの経年変化 ～千曲川流域の場合～

令和 2 年 2 月 滝本 悠太

要旨

目的

近年、治水計画において従来の計画降水量を上回る集中豪雨などの発生により、全国各地において水害が発生するなど、異常多雨によって気象災害が多く発生している。そこで、主要降水の経年変化特性を明らかにし、将来の水工計画策定に有用な情報を提供する事を目的として行った。

方法

治水計画において重要な要素である一雨降水に着目し、主要降水の経年変化を見るために長野県内の 6 流域の流域平均一雨降水を対象データとして、ハイエトグラフ等を用いて分析する。

結論

本研究では、6 流域では近年見られる集中豪雨の傾向は見られなかったが小市、生田、杭瀬下、熊倉流域に関しては治水に対して危険性が高いと考えられる結果が示されたので注意していきたい。他の 2 流域に関しては特に治水に対し危険な降水が増加しているという結果は得られなかった。

指導教員 寒川 典昭 准教授